

名古屋市歴史まちづくり戦略(案) に対する市民意見及び本市の考え方

名古屋市歴史まちづくり戦略(案)に対し、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。みなさまからいただきましたご意見の概要と、それに対する市の考え方を公表いたします。

お寄せいただいたご意見をもとに、戦略を一部変更させていただくとともに、今後の施策展開の参考にさせていただきます。

なお、ご意見のうち、内容について趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約、または分割等して掲載しておりますので、ご了承下さい。

名 古 屋 市

【名古屋市歴史まちづくり戦略（案）に対する市民意見及び本市の考え方の概要】

1. 期間

平成23年1月20日（木）～2月25日（金）（37日間）

2. 提出状況

意見提出者数 46人

意見件数 60件

提出方法	電子メール	ファックス	郵送	持参	合計
提出者数	21	12	9	4	46
件数	25	14	16	5	60

3. 意見の内訳

項 目	意見数	頁数
(1) 歴史まちづくり戦略全般	7	… 2
(2) 戦略Ⅰ 尾張名古屋の歴史的骨格の見える化 ・全般 (2) ・方針1 名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承 (7) ・方針2 悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上 (2) ・方針3 有松・堀川など「まち・むら」をつなぐ「道・水」を活かす (5)	16	… 6
(3) 戦略Ⅱ 世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす ・方針1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生 (1) ・方針2 近代名古屋のハイカラ文化を活かす (7) ・方針3 戦災復興により形成された資産を活かす (2)	10	… 12
(4) 戦略Ⅲ 身近な歴史に親しむ界隈づくり ・方針1 身近な歴史的界隈の趣を活かす (7) ・方針2 防災まちづくりとの連携 (1)	8	… 17
(5) 戦略Ⅳ 地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくり ・全般 (1) ・方針1 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進 (0) ・方針2 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進 (6) ・方針3 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信 (7) ・方針4 歴史まちづくり施策の総合展開 (5)	19	… 21
合 計	60	

【表の見方】

【市民意見の要旨】

みなさまから寄せられたご意見を要約して記述しております。類似した内容についてはまとめさせて頂いております。（意見の件数）

【市民意見】

みなさまからお寄せいただいたご意見を、原文に近い形で掲載しておりますが、一部要約、または分割して掲載しておりますので、ご了承下さい。

【市の考え方】

本市の考え方を示しております。

(1) 歴史まちづくり戦略全般についての意見

戦略全般について(7)

【市民意見の要旨】「名古屋の名所について(1)」

● 名古屋には名所のような魅力のあるところがない。

【市民意見】

名古屋は名所がないとよく聞きます。観光施設は、名古屋城くらいですが、京都のように「おみやげ屋」さんというのがありません。

【市の考え方】

名古屋には重層的な歴史を経た多くの歴史的資源が残されているにも関わらず、十分に認知されているとは言えず、必ずしも有効に活用されているとはいえない状況です。

歴史まちづくり戦略では、こうした歴史的資源を活用した魅力的な都市環境の維持・形成を目標としており、観光など様々な施策を総合的に展開するなど、名古屋独自の歴史文化の魅力を国内外へ発信していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「従来のまちづくりの反省について(1)」

● 従来のまちづくりの反省を踏まえたまちづくりを進めてほしい。

【市民意見】

以下のような「ひどい町づくり」をしておきながら、まちづくり“戦略”もないと思います。
・有松の古い町並みが車の通り抜ける新しい道路で2つに分断され、信号が無いので歩行者(散策する人)は渡ることすらできない。これだけでも、国の重要伝統的建造物群保存地区への登録は難しいと思います。
・大曽根のOZモールは、車の通り抜ける新しい道路で駅前から遮断され、完全に孤立してしまっていて、見るも無残に衰退してしまっている。
有松、大曽根は行政の施策でおかしな町にしまったのですから、こういう町からまず手を打つべきではないでしょうか。

【市の考え方】

これまでは、利便性や機能性を重視する考え方から都市環境の整備を行ってきましたが、社会が成熟するなかで、人々の都市環境に対する意識は、生活の質を重視する考え方に変化してきています。

こうした市民意識の変化の中で、名古屋の各地域に残された歴史的資源を活用した、魅力的な都市環境の維持・形成に取り組む中長期的な方針として、この歴史まちづくり戦略を策定しました。

【市民意見の要旨】「次の100年への方向性について(1)」

● 戦略(案)では「歴史」は過去の歴史が中心的に考えられているが、次の100年間に向かう方向性が同時に考えられなければならない。

【市民意見】

1) 戦略(案)では「歴史」は過去の歴史が中心的に考えられているが、21世紀の100年間に向かう名古屋市民による「新しい歴史の創造」が同時に考えられなければならない。そこで、次の提案を行う。
*提案1)「新名古屋城」(第2の名古屋城)を栄の中心街(三越百貨店の北側にある市有地;一部民有地を含む)に超高層ビルとして建設する。ここは、将来の中部州の行政拠点となると共に、名古屋市民にとっての地方自治のセンターとする。
*提案2) 道路によって分断されている久屋大通公園を大改造して、「新名古屋城」ならびに「オアシス21」と連結する。そして、名古屋を代表する世界に誇れる美しい都市公園とする。

- 2) 中央リニア新幹線が開業して、東京・名古屋・大阪が1つの巨大都市圏となった段階における名古屋の役割を考えて、名古屋市歴史まちづくりの戦略案を構想すべきである。現在提出されている戦略(案)はあまりにもスケールが小さすぎる。これからの「新しい歴史の創造」を考慮に入れて、首都機能の分散配置などを検討して、(案)に組み入れるべきである。

【市の考え方】

この歴史まちづくり戦略の目標年次は、次の100年(開府500年)を見据えつつ、概ね20年後(2030年)に向けた取り組みとしていますが、これまでの名古屋のあゆみを踏まえ、新しい歴史の創造として、都市のアイデンティティを強化していくことが重要であると考えています。また、戦略Ⅳの方針4では広域連携の推進を掲げており、歴史を共通のテーマにもった広域的な地域連携を促進し、情報発信に努めたいと考えています。

なお、名古屋市では、開府500年にあたる100年後の名古屋を展望し、めざすべきまちの姿の実現に向けたリーディングプロジェクトなど、中長期的な取り組みについて検討した「開府500年の名古屋のまちの姿」の提言を受け、今後の施策立案の参考としております。

【市民意見の要旨】「市民の反応の検証について(1)」

- 歴史をテーマとしたまちづくりの戦略は疑問であり、市民の反応を検証・確認して進めるべきではないか。

【市民意見】

各地区の歴史を知り、それを保全する事は大切に意義あることです。しかし、「戦略」という言葉じりを取る気持ちにはございませんが、これは「語りたくなるまち名古屋」の実現が戦略目標とありますが、民間で名古屋の歴史を語るのですか。(良いことですが) 安倍元総理の「観光立国」日本の一環の名古屋ですか。(これも良いことですが) このテーマをもって戦略とは、疑問です。名古屋が「偉大なる田舎」と呼ばれた時代がありました。現実には変化なしです。無個性の街名古屋です。私も桜山生まれの名古屋人ですが大学入学から20年間NY含む他の都市に暮らしましたが、この街にはイメージを醸成するものが欠落しているのでは？ 人気のある街は 横浜 港→山下公園→中華街→ヨコトラ 神戸 港→須磨海岸→南京街→異人館→六甲→三宮ファッション 京都 日本一の歴史の街 他所を圧倒 札幌 雪→北大・時計台→海鮮・乳製品 東京 世界でも稀有な「経済+政治」の街で他都市と比較できない町 工業国の牽引者「トヨタ」の町以外上記のような境界のある街づくりが、偉大なる田舎の課題ではないでしょうか。サブに「語りたくなるまち名古屋」の戦略テーマが明示されていましたが、それが「歴史」とは、市民の反応を検証、確認されましたか。 京都、奈良が更なる観光客の誘致、市民の自己啓発、古い歴史の再認識視点で取り組むなら理解できますが。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略は、主として「地域の歴史的資源を活かした魅力的な都市環境の維持・形成」に取り組むこととしており、都市計画、環境、文化、観光、産業などの様々な分野の計画や施策を、一度歴史まちづくりの視点から捉えなおし、整合・連携を図りながら、まちづくりを展開していくことを想定しています。まちづくりには観光など様々なアプローチがありますが、「歴史」という視点からのまちづくりの大きな方向性を打ち出したことに意義があるのではないかと考えています。

また、戦略を策定するにあたっては、平成22年6月18日～28日にネットモニターアンケートを実施し、「名古屋は歴史的な資源が豊富なまちだと思いますか」との問いに、「豊富なまち」と回答した人が22.4%、「どちらかといえば豊富なまち」と

回答した人が49.0%で合わせて71.4%でした。また、「歴史的な地域資源を活かしたまちづくりに、どのような意義があるか」との問いでは、「ゆとりとうるおい」「まちの資産価値の向上」といった項目について、50%近い回答があり、「意義があるとは思わない」との項目には、0.6%の回答でした。このような市民意見をもとに、歴史まちづくり戦略の策定を進めました。

【市民意見の要旨】「戦略の構成について(1)」

- 今後、市として力を入れていく事業を取り上げる構成にしてみてもどうか。

【市民意見】

非常にうまくまとめられていると思います。
一方、いろいろな施策が総花的に挙げられているので、リーディングプロジェクトをいう事項を起こして、力を入れていく事業を取り上げる構成にするとよりわかりやすいと思います。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略は、次の100年(開府500年)を見据えつつ、概ね20年後(2030年)に向けた取り組みを目標としており、地域住民・行政をはじめとする様々な主体によるまちづくりの展開を想定した、歴史分野におけるまちづくりの大きな方向性を示したものです。

今後は、戦略Ⅰ・Ⅱで取り上げた地域をはじめ、市内の各地域において、地域と協力しながら、具体的な歴史まちづくりを推進していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「名古屋の歴史の捉え方について(1)」

- 概要版のように名古屋の歴史を、「古墳時代」「城下町」「近代」「戦後」で枠付けてしまってもいいのか。

【市民意見】

名古屋の歴史は「古墳時代」「城下町」「近代」「戦後」で枠付けてしまってもいいのか。古代・荘園の時代だって、鎌倉街道の時代だって紹介できるものがある。「武士の時代」のものに偏っていると思う。「小田井人足」ではないが、名古屋のお城に恨みがある農民だっている。

【市の考え方】

名古屋には、古代から現在に至るまで、幾多の歴史を積み重ねた重層的な歴史的資源が各地域に残されています。歴史まちづくり戦略において、第2章で重層的な名古屋のまちの成り立ちを整理した上で、建造物や史跡といった有形の歴史的資源のほか、地域における伝承や人々の営みなど、様々な時代のものを幅広く歴史的資源と位置付け、歴史まちづくりを推進していきます。

【市民意見の要旨】「概要版表紙の鳥瞰図について(1)」

- 歴史まちづくり戦略(案)の概要版の表紙に使用されている鳥瞰図は、時代を全く特定できない誤りのある図であり、このような時期を特定できない資料をもとに戦略(案)を策定しても、でたらめなものになる。この鳥瞰図を削除するか、正しい清須越当時の鳥瞰図に修正すべきである。

【市民意見】

歴史まちづくり戦略(案)《概要版》表紙鳥瞰図について異議あり。
表紙の鳥瞰図は以下のような誤りがある。

清須越(慶長15年/1610年)当時

- 1、庄内川と五条川の合流点は、萱津付近であり、荒子付近と表示する本図は明治期。清須越輸送ルートの一つ、水路ルートであるので、この誤りは致命的。
- 2、陸路ルート的美濃路は、枇杷島～清須城は、庄内川と五条川の自然堤防上に形作られている。この絵では、低湿地を通っているとしかイメージできない。

細部では、

①この時期枇杷島橋の架橋前で、そのために造成された中島は成立していない。

②この当時「枇杷島」は庄内川の名古屋側の村名、この字の位置は「下小田井の市」。

清須越しとの関連からも重要な「下小田井の市」の表記を誤る事は致命的な間違い。

- 3、清須越しとしては重要ではないが、木曾三川が見事に分流しているのはあり得ない。

鳥瞰図は時代を全く特定できない出鱈目な図である。

新川が描かれていないので、明らかに1787年以前の名古屋圏の鳥瞰図であり、五条川と庄内川の合流点が荒子観音付近であり、木曾三川が分流している事から、明治期以降の鳥瞰図でもある。時代考証も出鱈目なイメージからは、出鱈目な戦略案しか生み出されない。

今後の正しい議論を深めるには、この鳥瞰図を戦略案から削除するか、正しい清須越当時の鳥瞰図に修正するか、どちらかしか方法は無い。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略は、第2章で名古屋のまちの成り立ちを整理し、有識者懇話会での議論や市民からのご意見を踏まえたうえで、戦略を策定しており、ご指摘をいただいた鳥瞰図をもとに策定したものではありません。また、戦略本編では鳥瞰図は使用しておりません。

なお、戦略(案)の概要版リーフレット等にて掲載した鳥瞰図は、時代考証を行ったものではなく、往時の名古屋周辺の様子をイメージしたものであり、市民のみなさまに歴史まちづくりに関心をもってもらう目的で、使用いたしました。

(2) 戦略Ⅰ「尾張名古屋の歴史的骨格の見える化」についての意見

戦略Ⅰ全般について(2)

【市民意見の要旨】「江戸期の都市計画の活用(1)」

- 名古屋のように400年前に計画された都市計画が、200万都市に成長した今日までも、堅固な骨組みとして機能している処はなく、名古屋人の生き様にも影響を与えている。このような江戸時代の生き様が名古屋には残っていることを強調する町づくりを進めてはどうか。

【市民意見】

我が国の多くの城下町は、支配者が策定した都市計画があり、それが多かれ少なかれ今日も機能しているが、名古屋の様に、400年前茫漠とした原野に計画された都市計画が、200万都市に成長した今日までも、堅固な骨組みとして機能している処はない。

戦後の卓越したアイディアとされた100メートル道路も市内の寺の墓を集めた平和公園も、万治の大火後の広小路、清須越で数多くの寺を東寺町、南寺町へ集団配置したアイディアを踏襲したともいえるのである。

しかも、ことは道路や寺に限らず、慶長プランはこの町に住み続けた人々の生き様に独特の深い影響を与えている。今や世界共通語となっている「MOTTA INAI」も似た者同士の町づくりの中で、同地域に住む下級武士や庶民は隣り住まいの気安さからお互い節約の方法を話し合いながら実行することが容易だったのだと思う。

名古屋人の足を知るつつましさは、慶長プランに結びついていると云っても過言ではない。これからの町づくりは発想を変え、あまりハード面にこだわらず、日本でも今や珍しい「江戸が残る町・名古屋」をテーマに、当地出身の浅井慎平氏の云われている様な東京にはない江戸、江戸時代の生き様が名古屋には残っていることを強調する町づくりへ向かうべきではないだろうか！

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略では、4つの戦略のうち、戦略Ⅰ「尾張名古屋の歴史的骨格の見える化」として名古屋城と城下町、熱田、城下町を支えた堀川や諸国を結ぶ街道など、古代熱田から近世城下町の時代にかけて形成されたまちの核や軸を、名古屋のアイデンティティ形成の基礎となる歴史的骨格と捉え、これらの核や軸を活かし、尾張名古屋の歴史・文化が感じられるまちづくりを進めることを掲げています。

今後は、この戦略にもとづき、碁盤状の町割を継承する城下中心部をはじめとした城下町における界隈の特色を活かしたまちづくりや、名古屋独自の伝統文化や伝統産業などの先人の知恵の継承などを進めていきます。

【市民意見の要旨】「重点的な歴史まちづくりについて(1)」

- 名古屋城や熱田神宮などのように全国的に著名なスポットを中心としたエリアで、歴史まちづくりを重点的に取り組むべきだ。

【市民意見】

名古屋城や熱田神宮などといった全国的に著名なスポットにおいて、来訪者が気軽に、更に一歩進んだ歴史体験をできるような取り組みが必要ではないか。来訪者自らが探り歩くのではなく、専門のガイドが、時代やゆかりの人物に関連した周辺の歴史的スポットを短時間で巡るコースを案内して、来訪者の関心をより広い範囲に向ける工夫をすれば、今まで目立たなかった歴史的資源にも目を向ける人が増えるのではないか。ただし、現時点で都市化が進んでいる地域において、歴史や趣を強調したまちに変える事は、都市の機能性を維持する上であまり望ましくないと思う。比較的新しいまち並みにおいて歴史的資源の魅力を向上させる事よりも、より長い歴史を持っているエリアで重点的に取り組むべきだと思う。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略では、活用すべき歴史的資源を、身近なものまで幅広く捉えていますが、名古屋城及び熱田については、名古屋のアイデンティティの形成の基礎となる

骨格として捉え、戦略Ⅰの方針1では名古屋城の再生、戦略Ⅰの方針2では熱田の魅力向上を掲げています。

今後は、本丸御殿の復元や名古屋城跡全体の魅力向上をめざした名古屋城の再生や、気軽に巡り・歩きまわりたくなる環境づくりなど熱田界隈の魅力向上について、重点的に取り組んでいきたいと考えています。

戦略Ⅰ方針1「名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承」について(7)

【市民意見の要旨】「名古屋城の再生について(2)」

- 魅力的な特典のある寄付を募るなどして名古屋城を集中的に整備し、全国に自慢できる観光の目玉にしてほしい。
- 支配者であった封建領主の城をどうして、現代の市民が再生しなければならないのか。

【市民意見】

名古屋城の再生について
寄付を募る際に、1口城主などで特典を付けることがあります。プレートをもらっても全くうれしくないと思います。
歴史好きな人は全国にたくさんいるので、もっとPRするために、例えば50万円以上寄付してくれた人には、誕生日月に殿様(お姫様)の格好をして、本丸御殿の表書院(上洛殿)の上段の間に座ってもらい、二之間、三之間に家臣の格好をした職員(アルバイト)に並んでもらう。そして、職員の人からお祝いの言葉をもらう(公開で)。そのあと、葵の紋の入った籠にのってもらい、場内一周というイベントをすれば、寄付する人も殿様(お姫様)気分です。楽しいと思いますし、寄付も集まるのではないのでしょうか。
あと、天守閣は無理だとしても、本丸東北隅櫓、東及び表一之門を復元し、その後多聞櫓を復元、最終的には本丸大手馬出や二の丸を整備して、職員も当時の格好にもらい、場内を江戸村のように、江戸時代が味わえるテーマパークになったらきっと多くの観光客がきてくれると思います。
深井丸では、戦国武将隊などを増やして戦国の合戦の再現をしたりすると楽しいです。
まずは寄付を募るなどして名古屋城を集中的に整備し、全国に自慢できる観光の目玉にしてほしいです。

戦略Ⅰ-1名古屋城の再生に反対します。どうして、封建領主の城を現代の市民が再生しなければならないのか。私は、封建領主の下で重い負担を課せられてきた尾張の農民の子孫として、封建領主の城の再生には納得できません。自分の祖先が苦しい思いをしてきたシンボルということを思えば、にくしみさえ感じます。過去を残すことよりも、未来を描いてほしい。支配者であった武士の子孫である市長は庶民ではなく、特権階級であるから、城の再生と言うのでしょうか。

【市の考え方】

名古屋城は、近世城郭の代表例であるとともに、名古屋のまちのシンボルとして400年の歴史を歩んできました。また、昭和5年に国から名古屋市の手になつて以降、80年以上にわたり名古屋市民の歴史的・文化的財産としても親しまれてきました。

戦略Ⅰの方針1では、名古屋城の再生を掲げており、近世城郭御殿の最高傑作といわれる本丸御殿の復元をはじめ、城内の建造物や庭園、障壁画など歴史的価値を構成する資産の保存・整備により名古屋城跡全体の魅力向上に努めるとともに、いただいた意見・アイデアなども参考にしながら、おもてなし武将隊などの取り組みも交えて、全国に自慢できる名古屋の観光の拠点に育んでいきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「四間道地区周辺のまちづくりについて(2)」

- イベントの開催等、四間道、円頓寺を中心としたまちづくりを進めてほしい。
- 駄菓子問屋が集まる西区の明道町、新道周辺を菓子の産業遺産地区として再整備し

て、多くの人が訪れるようにしてはどうか。

【市民意見】

現在、西区でボランティアガイドをしております。まちづくりをするためには拠点づくりが先決で西区のナゴノスペースをもっと活用して欲しい。これは西区を中心に行うこととし、ナゴノスペース、四間道、円頓寺を中心としたイベントの開催、夏のどまつりの時期でもよい。ただ、円頓寺の東堀川端で公衆トイレの設置が今後あれば嬉しい。又、案内所兼レストラン、ギャラリー等一つの建物の建設も希望します。

西区は菓子メーカー（工場）が多いので、駄菓子問屋が集まる明道町、新道周辺を菓子の産業遺産地区として再整備して、多くの人が訪れるようにしてはいかがでしょうか。

- ・ 中心施設として駄菓子の博物館をつくる（問屋の跡地などを活用）。
- ・ 近くの円頓寺商店街を昭和レトロ商店街として再生する。
- ・ 定期的にお菓子問屋やお菓子工場を巡る見学ツアーを開催する。

【市の考え方】

戦略Ⅰの方針1では、城下西部の特色をいかした地域のまちづくりを掲げるとともに、戦略Ⅳの方針2では、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進を掲げています。

今後は、四間道地区については、地域で行われているイベントなど、地域主体による歴史まちづくりへの取り組みへの支援を通じ、周辺の堀川や商店街との連続性を活かした魅力向上を図るとともに、美濃街道～四間道周辺においては、産業文化や歴史文化の集積を活かし、地域全体の魅力を高める「ものづくり文化の道」構想を推進し、市民が親しみ・楽しむことができる歴史環境づくりを進めていきます。

【市民意見の要旨】「建中寺について（1）」

- 尾張徳川家の墓は、建中寺には2代光友公の墓しかなく、7代宗春公の墓が平和公園にあるなど、ばらばらになってしまっており、再整備が必要ではないか。

【市民意見】

建中寺を見直そう

江戸時代という270年の年月は日本の中に多くの遺産を残してくれました。名古屋については歴史についての考え方に少々疑問に思うことがありました。

今回は墓についての申し出をしたいと思います。

一部の墓しか見ておりませんが上野寛永寺には將軍の墓が、増上寺には縮小された状態で將軍の墓が、金沢の前田家の墓は野田山に整然とあります。

この愛知の尾張徳川家の状況はといいますと惣図で徳川家の墓として守られてきたことがわかります。また、誰がどの位置にあったかも照合できます。

その後今の状態はといいますと、

- ・ 建中寺には2代光友公の墓しかありません
- ・ 7代宗春公の墓碑は平和公園内にあります・・・戦後移動
- ・ 定光寺に初代義直公の墓があります
- ・ 9代宗睦公の墓碑は小牧山にあります・・・中学の体育館（市営住宅建設のおり）

今までに2回の大きな変化があったようです。

1回目が戦後の事業の一環として市内の寺300あまりを平和公園に集めたことで、市内に残るのは『一家で一基』のもと実施されたようです

2回目は中学の体育館、市営住宅の建設に際して行われたこと

今の状況は写真を添付致します。

2回のことでどうなったかといいますと、藩主・妻・子供達38人がガレキとして現状も放置されています。それは表示された文字も削り取られています。

檀家は尾張徳川家のみという問題もあるのかもしれませんが。今つくられようとしている本丸御殿、その一環として徳川園、建中寺、そして徳川家に関わった寺、遺跡、その整備のためにも提案申し上げます。

市内の多くの遺跡を巡りました。その時からこれは何とかならないか、率直な想いです。（別途資料を頂きました。）

【市の考え方】

戦略Ⅰの方針1では、城下東部の特色をいかした地域のまちづくりを掲げ、また、戦略Ⅲの方針1において、界隈の魅力を活かした地域まちづくりの推進を掲げています。

今後は、建中寺をはじめとする周辺の歴史的建造物を活かしたこの地域の魅力向上に努めるなどし、近世武家文化を国内外へ発信できる環境を整えていくとともに、身近に眠っている歴史的資源を、地域の力により、改めて地域の魅力として、浮き上がらせるまちづくりを支援していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「伝統芸能・伝統文化について（2）」

- 名古屋は現在受け継がれる日本の伝統芸能や現在の芸に繋がるルーツの地とも言え、「芸どころ名古屋」をもう一度考え、再度の掘り起こしを提案する。
- 鳴海宿において、笠鉾などの伝統文化の復活についても取り組んでほしい。

【市民意見】

芸能発祥地名古屋を伝え文化都市と言える町造り。
「歌舞伎」の元祖と伝える名古屋山三郎の屋敷跡は名古屋城三の丸と云い、出雲お国は熱田の断夫山古墳の辺り、清須の日吉神社境内で興業したといわれ、初代中村勘三郎は中村区出身と伝え、熱田は「都々逸」の発祥地と云う。女優の始めの川上貞奴も名古屋に住み、川上音次郎のオッペケペー節は名古屋若宮神社の神官の子、若宮万次郎の作と云う。和泉流狂言も尾張公が山脇和泉守を保護して発展し、明治以降東京、京都に移った一門により更なる発展を遂げた。北区楠味鉾に尾張万歳の元祖と云う安倍徳若も住み、名古屋は現在受け継がれる日本の伝統芸能や現在の芸に繋がるルーツの地とも言え、その伝承やその基を創った人達の足跡が各所にあり、「芸処名古屋」をもう一度考え、再度の掘り起こしを提案します。
(別途資料を頂きました)

かつての鳴海宿の祭りでは、山車だけでなく華麗で多数の笠鉾が大いに評判を得ていました。この笠鉾は現在ほんの少数を除いて失われています。また、祭りの内容もかなり変化してきているようです。こうしたことから、伝統文化の「継承」にとどまらず、「復元・発展」についても取り組んでほしいと思います。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略では、建造物や史跡といった有形の歴史的資源のほかに、文化、伝承や人々の営みについて幅広く歴史的資源として捉え、まちづくりに活用すること、文化・観光など、歴史まちづくりに関連する分野と総合的な施策の展開を行うことを視点として挙げております。

今後、かつて「芸どころ」と呼ばれた江戸期からの伝統を引き継ぐ名古屋独自の文化について、広く情報発信することや担い手の育成に取り組むなどし、都市の文化魅力の継承・創出につなげていきたいと考えています。

戦略Ⅰ方針2「悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上」について（2）

【市民意見の要旨】「熱田界隈の魅力向上について（2）」

- 熱田界隈の魅力向上にもっと具体的に取り組んで欲しい。また、「都々逸^{どどいつ}発祥の地」を取り上げてほしい。

【市民意見】

本冊子の戦略Ⅰの方針2「悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上」のところに、「都々逸発祥の地」として取り上げてほしいと思料します。熱田区神戸町、伝馬町あたりは、神宮や七里の渡しなどの観光資源があるにもかかわらず、十年一日のごとく全く発展のないところです。
(別途資料を頂きました)

【市民意見】

【戦略Ⅰ－2】熱田の魅力向上について①駅に親しみのわく（イラスト入りなど）観光マップ（掲示と持ち歩けるもの）を置いて下さい。②歴史的資源の近くで休憩できる場所やトイレなどを充実させて、またその情報がわかりやすく伝わるようにして下さい。③近隣の小中学校の総合学習、また高校大学の地域交流の中で、地域の歴史を取り上げたものを、住民や観光客にも紹介して下さい（よい学習活動がいろいろ取り組まれているのではと思います）④図書館や文化小劇場などの施設を取り入れもっと紹介して下さい。

【市の考え方】

熱田界隈については、多様な歴史的資源が残されているとともに、地域において様々な取り組みも行われてきており、本市の歴史まちづくりを進める上で、重要な地区であると考えています。

戦略Ⅰの方針2では、熱田の魅力向上を掲げており、今後、熱田界隈を重点的な地区として位置付け、ご意見も参考にしながら、散策ルートの情報発信や地域、学校との連携をはかるなど、魅力向上に努めていきます。

なお、ご意見にある「都々逸発祥の地」については、本文38ページの熱田界隈の地図に追加して記載しました。

戦略Ⅰ方針3「有松・堀川など「まち・むら」をつなぐ「道・水」を活かす」について（5）

【市民意見の要旨】「水辺の活用について（1）」

- 徐々に整備されている堀川をはじめとした水辺は、歴史まちづくりの大きな資産として活用してほしい。

【市民意見】

堀川沿いが徐々に整備されてきていますが、かつてテキサスへ行った時、サン・アントニオで見た運河べりの再開発のにぎやかさが忘れられません。水辺は大きな資産だと思いますので、活用をお願いしたいと思います。

【市の考え方】

歴史まちづくりにおいては、水辺空間は重要な歴史的資源と考えており、戦略Ⅰの方針3では、名古屋城下と熱田を結んだ堀川について、河川・用水などの歴史を活かしたまちづくりの推進と歴史が感じられる水辺景観の形成に努めることを掲げるとともに、戦略Ⅱの方針1では、名古屋の近代化・産業発展を支えた都市基盤である中川運河を歴史的資源と捉え、活用・再生を推進することを掲げております。

今後は、この戦略に基づき、堀川や中川運河を代表とした、水辺空間を活用した歴史まちづくりを推進していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「鳴海界隈について（2）」

- 鳴海駅前再開発事業は、「歴史まちづくり」の流れもふまえて見直しを行ってほしい。
- 「鳴海界隈の魅力向上」において、成海神社についても取り上げてほしい。また、鳴海界隈の「歴史的資源の豆知識」についても掲載してほしい。

【市民意見】

鳴海駅前再開発事業は、社会経済状況の変化や「歴史まちづくり」の流れをふまえ、大胆に見直すべきです。浅間社や鳴海八幡宮御旅所といった歴史的建造物を保存・活用した「歴史と心のふれあいのあるまちづくり」を進めるべきだと考えます。高力猿猴庵が描いた「鳴海祭礼図」の中でも、浅間社・鳴海八幡宮御旅所は、宿の「へそ」とも言える位置に描かれています。（別途資料を頂きました）

【市民意見】

- ・ 本文 44 ページ「鳴海界限の魅力向上」において、熱田神宮ゆかりの成海神社についても取り上げてほしい。
- ・ 下記の鳴海地区の「歴史的資源の豆知識」を載せてください。
 - ① 鉾ノ木を含む三王山一帯の遺跡、雷・矢切遺跡（人骨）
 - ② 成海神社（熱田神宮由来、氷上姉子神社とあわせて）
 - ③ 名所鳴海潟と芭蕉ゆかりの地（誓願寺・如意寺、千鳥塚・三王山）
 - ④ 桶狭間合戦（鳴海城址、丹下・善照寺・中島砦）
 - ⑤ 鳴海の祭り（尾張年中行事会抄、小治田之真清水、鳴海祭礼図）
 - ⑥ 旧鳴海球場

【市の考え方】

鳴海駅前第2種市街地再開発事業等については、歴史的環境にも配慮して進めているところですが、ご指摘の視点をふまえ、本文 45 ページの記載について、下記のように追加しました。

旧	・旧東海道に近接する鳴海駅前においては、市街地再開発事業の推進等による地域の拠点形成を図るなど、地域の生活利便性を高めます。
新	・旧東海道に近接する鳴海駅前においては、 周辺の歴史的環境にも配慮しながら 、市街地再開発事業の推進等による地域の拠点形成を図るなどし、地域の生活利便性を高めます。

また、鳴海界限には多数の歴史的資源があることから、「歴史的資源の豆知識」について追加して掲載することとし、成海神社等を豆知識として追加しました。

旧	(なし)
新	【成海神社】、【鳴海城跡】、【芭蕉堂・芭蕉最古の供養塔】

なお、本再開発事業については、名鉄名古屋本線の連続立体交差事業とともに、都市計画道路や駅前広場の整備や、魅力ある商業・業務・サービス施設及び都市型住宅施設等の整備を通じて、交通結節点としての機能を高め、地区の活性化を図ることを目的に実施しているところです。当再開発事業については事業計画決定から10年以上が経過していることから、必要に応じて、社会経済情勢の変化等に対応した見直しを行いながら事業を進めていきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「道の歴史の活用について（2）」

- 今でも「古渡」などの地名として残っている鎌倉街道を活用して欲しい。
- 三英傑に関する地や街道を含めた観光地やウォーキングの道が充実するとよい。

【市民意見】

「道の歴史を活かしたまちづくり」（戦略Ⅰ-3）に賛成です。ただ、公表された案《概要版》には「鎌倉街道」が載っていません。名古屋を半分しか通っていない（宮～有松）東海道の歴史は400年足らずですが、名古屋を横断している鎌倉街道は1000年以上の歴史があり、いまでも「古渡（ふるわたり）」などの地名として残っています。是非とも鎌倉街道も「活かし」てください。

郷土の三英傑に関する地も入れて中・熱田・中村区などを含めて街道を含む観光地とウォーキングの道があるとよいと思います。

【市の考え方】

戦略Ⅰの方針3では、城下と熱田を結んだ本町通や、周辺諸国や村々をつないだ東海道、また鎌倉街道などの他の街道の歴史を継承し、道を通じて身近に歴史が感じられるまちづくりの推進を掲げています。今後は、こうした街道を活かしたまちづくりを進めるとともに、観光分野における施策と連携をしながら、歩いて楽しい道づくりを推進していきたいと考えています。

(3) 戦略Ⅱ「世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす」 についての意見

戦略Ⅱ方針1「名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生」について(1)

【市民意見の要旨】「産業遺産について(1)」

- 名古屋市内には産業遺産が多くあり、市民もこれらを知りたがっているにも関わらず、埋もれてしまっている。名古屋はものづくりで発展してきたまちでもあり、戦略には産業遺産も是非取り上げてほしい。

【市民意見】

1. 私達の中部産業遺産研究会は金山の都市センターにて昨年11月に「名古屋のまちづくりを支えた堀川・新堀川～産業遺産と企業を訪ねて～」の写真パネル展・講演会を開いた。パネル展は1800名弱、講演会には120名の方が来られた。
来館された方は、何処に行けば見ることができるか、日頃見てもパネルの解説で始めて知ったなど学びたがって知りたがっている。名古屋市内には良い物がたくさんあるが、町の中に解説板や判りやすいガイドブックがないために、埋もれてしまって宝物が大事にされていないと思われる。街角には「地域の歴史や産業の散歩道」の案内板を多く建てることを希望したい。そのためには興味や関心のある方に集まってもらい看板造りを始めることです。協力を惜しみません。
2. 私は緑生涯学習センター主催「緑区今昔物語」連続講座で「緑区のまちづくりを支えた企業(産業)と産業遺産」を語りました。この講座参加者は緑区の歴史や産業遺産に興味を持ち、歩いて見たいなどの意見がある。
3. 各地でいろんな形の講座など開かれているので、これらに関わったかたの話を聞いたり、資料を集めることが大事なことと思います。
4. 理念のなかには是非「産業遺産」の項目もいれてください。名古屋はものづくりで発展してきた街です。ものづくりの原点の産業遺産も是非採り上げていただきたい。資料提供など協力をします。

【市の考え方】

戦略Ⅱの方針1では、名古屋の近代化・産業発展を支えた都市基盤や中部圏の産業発展の歴史を物語る産業施設等について、大都市名古屋の骨格を形成した歴史的資源と捉え、これらを活用・再生したまちづくりを推進すること、また、戦略Ⅳの方針3では、歴史まちづくりの情報発信を掲げております。

今後は、中川運河の再生や名古屋港周辺の魅力向上、水道施設の保存・活用、古い工場や倉庫等の産業施設の保存・活用などに取り組むとともに、地域やまちづくりNPO、学識者、専門家団体、民間事業者など多様な主体の交流や連携を通じ、歴史まちづくりに関する情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

戦略Ⅱ方針2「近代名古屋のハイカラ文化を活かす」について(7)

【市民意見の要旨】「文化のみちについて(1)」

- 散策ルートを文化のみちに設定をし、文化のみちの充実を図って欲しい。

【市民意見】

「名古屋城から東区文化のみちを通り徳川園」までの道をつくる。一本の線でなく、複数の道を通り遺跡・寺社・武家時代・文化、産業など広く取り入れる。途中で小物店などアイディア店や飲食店など商店街を楽しみながら、クイズを考えながら歩けるコースを選定する。メーグルバスの点でなく線としてのコースを通る。

【市の考え方】

戦略Ⅱの方針2では、市役所本庁舎や市政資料館など近代建築や近代名古屋において活躍した起業家や文化人が建築した特色ある近代洋風住宅など、多くの歴史的資源が残る名

古屋城から徳川園にかけての一带を「文化のみち」として育み、近代名古屋の息吹が感じられるまちづくりを推進することを掲げております。

今後はこの戦略に基づき、一带をつなぐ散策ルートの充実や観光ルートバスの運行などの回遊性を高める方策について、検討を進めていきたいと考えています。

【市民意見の要旨】城山・覚王山周辺について（4）

- 千種区の城山八幡宮一带は、末盛城跡や旧昭和塾堂、社叢といった貴重な歴史的資源があり、歴史まちづくりにおいて重要なエリアである。歴史的建造物を保存する公的な制度・資金の導入や建造物の用途転換を図るなど、総合的な視点での取り組みが必要である。
- 覚王山周辺の、日泰寺、奉安塔、鉦薬師、東山給水塔、揚輝荘を一体的に散策できるように整備してはどうか。

【市民意見】

千種区の末盛城跡（現、城山八幡宮）と、その一带の森（含、昭和塾堂）は「歴史のまちづくり」の大きなポイントの一つと考えられる。特に「昭和塾堂」はその名の通り、昭和初期のものであり、「塾堂」として戦前は其の役を果たし、戦後は種々に（一時は千種区役所としても）利用された。その周辺一带は歴史的資源、即ち末盛城（織田信秀）の跡があり、現在は城山八幡宮とその鎮守の森、その中に聳え立つ「昭和塾堂」は周囲の森と併せて景観的側面からも“語りたくなるまち”である。

又、今後 10 年、50 年、100 年後を想定したら、その建造物の用途転換が出来れば、これは又大変好ましい事と考える。

千種区城山八幡宮の境内は、末盛城跡であり、歴史的まちづくりとしての位置づけと評価はそれなりにためられているが、城跡を構成する二重の空堀の保存については言及がなく、現状のまま自然に任せる手段しかない。現存する二重の空堀は他に例がなく、貴重な歴史的文化遺産と聞く。そうした空堀を、歴史的なまちづくりの一環として後世に保存・継続して行くためには、何らかの方策が必要と思われる。堅固なものであればその必要はないが、掘り割っただけの「空堀」が今でこそ現状が保たれている（現実はそのようではないと思われるが）、自然のままに任すことは不安を感じる。くずれる事もある。思うに八幡宮側に管理させる責任があるとすれば問題がある。

千種区城山八幡宮境内に建つ、旧昭和塾堂は、その建設目的も当時の国情からみても、歴史的意義が大きい。また、その建築様式にもそれなりに歴史的文化的価値があり認められている。しかし長年月を経て、その老朽化は著しい。文化遺産として、また景観的にも地域に定着し、心に残る風景となっている。こうした歴史的建造物をまちづくりの一環として、後世に伝えるためには、老朽化した建物を保存する公的制度が必要である。建設目的、建築様式、景観の素晴らしさは誰もが認めている。修理するにしても一所有者だけでは不可能であり、公的資金の導入が望まれる。八幡宮側としては、それなりに努力していると聞く。然し、規制上困難さがあると聞く。公的資金の導入がなければ保存し、後世に伝える事は出来ない判断する。歴史的なまちづくり戦略での助成をされたいと願う。

戦略対象地域となっている当城山八幡宮一带について、いくつか疑問があります。

当宮については、戦略Ⅱの中、「(2) 近代住宅地の景観・風致の維持向上」の中に、「城山八幡宮」「昭和塾堂」「末盛城跡」が入っています。しかし、「城山八幡宮」については、「住宅地」という括り以前より、大須と並ぶ「社寺集合の地」である特徴を持ち、近年「やまのて音楽祭」「地域委員会」等からも、その特徴を踏まえたまちづくりの方向が望まれています。

また、「昭和塾堂」については、所謂「帝冠様式」の近代建築として、「名古屋市役所本庁舎」「愛知県庁本庁舎」の先駆けとなった歴史的意義を持ち、「(3) 近代建築の保存・活用」に含まれるべきものであります。現に、昭和塾堂については、「保存か、除却か」の分岐点に来ており、何らかの知恵を必要としているところです。

そして「末盛城跡」については、戦国期の史跡としての要素は勿論であるが、「ほうろく道」との関連づけも望まれるところです。最後に、現在の「城山八幡宮社叢」については、近年の「ナラ枯れ」被害が深刻な状態を引き起こしており、市街地に残る希少な森としての危機的状況にあります。そして、境内隣接の住民との、樹林が引き起こす軋轢が多発する状況があり、現在の社叢を保全する事が非常に困難になっており、今後大幅な樹林改造が必要となっています。

現在の「名古屋市歴史まちづくり戦略（案）」は、以上の要素が分断的に区分されていますが、以上の点を踏まえ、各特徴・課題を交叉的に捉えた見方が望まれます。また、現在までの住民による「まちづくり」もそういった視点で活動が行われており、それでこそ、より効果的な「まちづくり」へと発展して行くと思慮されるものであります。

- 覚王山周辺の、日泰寺、奉安塔、鈍薬師、東山給水塔、揚輝荘を一体的に散策できるように整備してはいかがでしょうか。
- ・日泰寺は駐車場の中に建物があるように見えて風情がないので、境内に松などの木をもっと植えて、潤いのある風情をつくる。
 - ・日泰寺参道の空店舗を有効活用して、新しい店の出店を促す。
 - ・上記をスタンプラリー形式で回って、全部回ると記念品などがもらえるようにする。

【市の考え方】

戦略Ⅱの方針2では、城山・覚王山界隈の魅力向上を掲げ、城山八幡宮・日泰寺等の寺社、近代建築物、史跡などの歴史的資源の活用や参道の賑わいの創出などにより、界隈の魅力向上につとめることを掲げるとともに、揚輝荘についても、段階的に修復・整備を進めることを掲げています。

また、戦略Ⅱの方針2では、近代建築の保存活用を、戦略Ⅳの方針1「身近な歴史的建造物の保存・活用の推進」では、歴史的建造物に対する技術的・経済的支援を行う体制を構築することやコンバージョン（用途転換）などの取組みについても支援を行うことを掲げており、城山八幡宮一帯に残された歴史的資源を活かしたまちづくりを、戦略をもとに多面的に捉え、総合的に支援していきたいと考えています。

なお、末盛城跡や旧昭和塾堂等についても、城山・覚王山界隈の魅力向上を図る上で、重要な要素と考え、本文64ページの記載については、下記のとおり変更しました。

旧	・城山・覚王山界隈においては、城山八幡宮・日泰寺などをはじめとする寺社、近代建築物などの歴史的資源や、起伏に富んだ住宅地の木立の緑を大切にし、緑豊かで特色ある住宅地としての景観・風致の維持・向上を目指します。
新	・城山八幡宮・日泰寺等の寺社、 揚輝荘・旧昭和塾堂 等の歴史的建造物、 末盛城跡 等の史跡を有する城山・覚王山界隈においては、多様な歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組むとともに、起伏に富んだ地形や木立の緑を大切にし、緑豊かで特色ある住宅地としての景観・風致の維持・向上を目指します。

【市民意見の要旨】「近代建築の保存・活用について（2）」

- 歴史的建築物である「名古屋市公会堂」を再生し、若い人々にも、歴史、文化施設の重要さや先人達が築いてきた文化を継承してほしい。
- 景観重要建造物への指定などを通して、近代建築の保存に努めてほしい。

【市民意見】

私は昭和33年に名古屋市中区に生まれた名古屋人ですが、名古屋市の歴史的建築物である『名古屋市公会堂』の老朽化した客席を改修して、既に改修がされ、素晴らしいホールとして再出発している『大阪市中央公会堂』のように、一日でも早く魅力ある第一級のコンサートホールのようにして欲しい。歴史のある名建築を再生し、若い人々にも、歴史、文化施設の資源の重要さや先人達が築いてきた文化を継承できるようにして下さい！

「近代建築の保存」(戦略Ⅱ-2)に賛成です。大正期に建てられた公立の旧制中学の講堂が残っているのは、名古屋市内では瑞陵高校(瑞穂区)の講堂(感喜堂)だけです。感喜堂の建立は1924年です。白亜なハイカラな講堂で道路からも眺めることができます。是非とも感喜堂を景観重要建造物に指定してください。

【市の考え方】

市内各所には、市公会堂など近代都市化を物語る歴史資産である近代建築が残されており、戦略Ⅱの方針2では、近代建築の保存・活用を掲げ、景観重要建造物の指定など

を通して、保存・活用に努めていきます。

また、公会堂など市所有の近代建築については、近代工法を取り入れた先駆的な建造物として建設された貴重な建造物としての価値を踏まえ、保存及び活用に取り組んでいきたいと考えています。

戦略Ⅱ方針3「戦災復興により形成された資産を活かす」について(2)

【市民意見の要旨】「歩行者中心のまちづくりについて(1)」

- 歴史を大切に作るまちづくりは、車中心のまちづくりではなく、自転車・歩行者中心のまちづくりが必要である。

【市民意見】

本年初めて若宮神社→那古野神社→(名古屋城)に参加し感動しました。若宮神社が名古屋城にあった事も東照宮があった事も知り驚いています。
理由は、100m道路などの道路網の充実を背景とした車中心の生活で日頃は眼に入らないこと。歴史を大切にするヨーロッパでは看板や住宅改装に基準を設け保存しています。本町通は名古屋の発展の中心であり社寺が軒並み貫き名城一熱田を結んでいます。本町通も東別院で大きな国道で南下し本町通は、車では国道41、19号との認識です。
神社仏閣を始め歴史に残っている飲食店、当時のお店や伝統工芸店を残して、できれば加藤商会ビル、文化のみち二葉館等々を中心に市民がまず楽しめる工夫をし、車中心の交通ではなく、自転車、歩行者中心の街づくりが必要と思います。

【市の考え方】

社会が成熟化する中で、都市環境に対する人々の意識もこれまでの、利便性や機能性を重視する考え方から、生活の質を重視する考え方へ変化しており、都市に残った歴史的資源を活用するなど、環境と人にやさしい都市空間を再生していくことが必要であると考えています。

戦略Ⅱの方針3では、広幅員道路を活かした交通まちづくりを掲げ、戦災復興計画により生み出された都心部の広幅員道路を歴史的資源と位置付け、社会実験を通じた自動車交通の制御などを通じて、環境と人にやさしい交通まちづくりを推進していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「東山動植物園の再生について(1)」

- 歴史まちづくり戦略の内容となっている「東山動植物園の再生」に是非取り組んで欲しい。

【市民意見】

今回の戦略の中に東山動植物園の再生がありましたので、動物園について意見をさせて頂きたいと思いました。
・人だけのことでなく動物たちのことも考えて、より清潔で、よく動き回れ運動のできるスペース、居心地が良く、ストレスがかからない快適な場所であること。
・動物の種類にもよるかとは思いますが、鉄格子などの檻ではなく、陽の光が良く差し込んだり風通しがいい(例えば夏は涼しく、木陰があったり、冬は暖かい等温度調節が可能)と良い。
・それぞれの動物の、元々いた生息地に近くなるような、より自然が豊富な環境づくり。
・一頭でぼつりとならないように、仲間と共に暮らすことが出来たり、動物たちの喜ぶもの、好きなものがあると遊べる環境づくり。
・赤ちゃんが生まれたら、心身が成熟するまで親と(お母さん、又はお父さんも)いっしょに毎日を安心して暮らせるような環境づくり。
・健康を害するもの、口にすることが近くにないように、具合が悪くなったときは手厚い診療、看護。
・多くの人が彼らを見にやってきましたり、指をさしたり、笑ったりもストレスとなる。
・ナイトゾーは、昼間とかわり人にとって楽しみかもしれませんが、彼らにとっては朝から晩までの長い時間は負担では。
・展示物という呼び方には疑問がある。彼らも私たちと等しく生きており、感受性ある生きものです。

【市民意見】

- ・動物たちがどのように生態系をつくってくれているのか、その重要性を目で見たりしながら説明して頂けたり、示すところがあるといいのではないかな。
- ・人々の意見の多くは、動物たちとのコミュニケーションや親しみ、学ぶことでした。人の関心が、動物園に暮らしている彼らの動物福祉や動物愛護、更には動物の権利の考慮までも（まとまっておりませんが）行き着いて下さると良い。それも学習。
- ・近くにある東山の里山との関連をもたせると一層いいと思う。又は、別々の生かし方で良いアイデアがあるか。
- ・自然や動物たちのことを大切にしている自然保護団体などの方々にも意見をして頂き参加下さるといいのではないかな。
- ・飼育されている方などが、動物と接触して怪我を負うことがあります。そういったことがなくなる環境づくり。

【市の考え方】

東山動植物園再生プランは、動植物園では、「動物を見て楽しむ」「楽しみながら学ぶ」「野生生物を守る」「調査研究を行う」の4つの役割を展開し、自然のすばらしさや大切さを体験・体感していただき、「人と自然をつなぐ懸け橋」に生まれ変わることを目標としております。

計画の推進にあたっては、歴史まちづくりの視点からも、東山の資産である「豊かな自然」や「歴史的文化的な施設」を保全活用した空間づくりを行うとともに、動物園においては、生態的な展示や動物福祉に配慮した施設づくりも行っていきたいと考えています。

（４）戦略Ⅲ「身近な歴史に親しむ界隈づくり」についての意見

戦略Ⅲ方針１「身近な歴史的界隈の趣を活かす」について（７）

【市民意見の要旨】「市民レベルからの歴史まちづくりについて（１）」

- 名古屋は古墳、縄文・弥生の遺跡、尾張造の神社、鎌倉・室町時代の東海道沿いの町並み、巾下上水の名残りなど、名古屋にはまだまだ多くの見るべきものがあるにもかかわらず、ひっそりとしており市民自身が知らない状況である。是非とも、市民レベルから歴史まちづくりが湧きあがってほしい。

【市民意見】

「名古屋市歴史まちづくり」ですが、まずは素晴らしいことと思います。ようやく名古屋も動き出したかという気持ちです。ご当地は本当に素材が豊富な所です。他所であれば、頼朝生誕の地だけでも大きな資産でそれにちなむモノ・コトがあるかと思いますが、名古屋ではひっそりとしたままで、下手をすると市民自身が知らないということが起こっています。

戦略案にのっている場所で、行っていないのは揚輝荘だけでした。昔、志段味の白鳥塚に行った時は、誰も来る人が無いようで、ヤブの中を駆け回ったこと思い出しました。この中に取りあげられていないのが、

一 街中に古墳が多いこと・・・大須にある、鶴舞公園の円墳は全国的に見ても巨大、神社と一体になった古墳が多い

二 見晴台だけでなく縄文・弥生の遺跡が多いこと・・・名古屋台地の北縁もまた笠寺台地方面その他至る所にあること

三 神社の尾張造が極めてユニークなこと・・・石仏の塩付街道沿いに昔ながらの造りで残っていたのが印象的

四 鎌倉・室町時代の東海道沿いに趣きのある町並みが残っていること・・・井戸田周辺・露橋の住宅地＋鎌倉橋・萱津宿の名残り（多くは対岸側ですが全体として東海道随一の宿場であったことが想起させられる）

五 巾下上水の名残りが残っている・・・名古屋城の西側に遺構が残っている

等々、名古屋にはまだまだ多くの見るべきものがあるように思われます。是非こうしたことを市民レベルで湧き上がるようにしていただけたらと思います。

【市の考え方】

ご意見のとおり、名古屋には重層的な歴史を経た多くの歴史的資源が残されているにも関わらず、十分に認知されているとは言えず、必ずしも有効に活用されているとはいえない状況です。

戦略Ⅲの方針１では、身近な地域に残る異なる時代の多様な歴史的資産を活用した、それぞれの地域でのまちづくりの推進・支援を掲げるとともに、協働理念を「歴史的資源をみんなでまもり・いかし・つなぐ」として、市民や行政が協働して、市民共有の財産である歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組むことを掲げております。

今後、この戦略に基づき、身近な地域に残る多様な歴史的資源を活かし、市民と行政が協働しながら、歴史まちづくりを推進していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「名古屋出身の歴史的人物について（１）」

- 歴史まちづくりについては、物質的なものに対象を限定せず、名古屋が育てた歴史的人物などの無形的なものも対象としたまちづくりとして欲しい。

【市民意見】

「身近な歴史的界隈の趣を活かす」（戦略Ⅲ-1）は改善の余地があります。「歴史的界隈」という物質的なものに対象を限定していることに問題があります。例えば、杉原千畝（外交官。世界大戦中に 6,000 人のユダヤ人の命を救った。名古屋出身）のような偉大で国際的に知名度のある人物を表敬する記念碑を名古屋市内に造営することは、名古屋の国際的知名度を上げることにもつながるので、「歴史的界隈」にこだわることなく、「名古屋が育てた歴史的人物（の知名度）を活かす」という無形的なものをも含めた試みとして、是非とも行って欲しいです。

【市の考え方】

戦略Ⅲの方針1にある「歴史的界隈」については、目に見える歴史的建造物だけではなく、背景として存在するまちの成り立ちや祭礼・産業などの人々の営みも含めて、その概況を整理して、地域主体のまちづくりのきっかけとして活用できるよう情報発信を行うこととしています。

また、同じく戦略Ⅲの方針1では、界隈の魅力を活かした地域まちづくりの主な視点として、名古屋を往来した人々に着目した取り組みを具体例としています。目に見える「モノ」だけではなく、伝承や人々の営みなどの「コト」についても、歴史まちづくりの対象として取り組んでいきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「物語の活用について（1）」

● 「物語」も歴史まちづくりの資源の対象となるのではないかな。

【市民意見】

「語る」ためには、事実だけではおもしろくありません。そこには【物語】があって、はじめて語りたくなるのではないのでしょうか？
そのため、過去から現代まで幅広く市民が話題とできるような「物語」を集めたサンプル集、いわば『ネタ本』を作ってはどうかでしょうか。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略では、戦略推進の視点の一つとして、地域に残された歴史的資源（モノ・コト）を大切にする視点を挙げ、建造物や史跡といった有形の歴史的資源のほか、地域における伝承や人々の営みについても幅広く歴史的資源として捉えております。

戦略Ⅲの方針1では、身近に残されている歴史的建造物や伝承などを活かした、地域のまちの魅力の発掘・向上を掲げておりますが、今後は、地域による主体的なまちづくりと協働するなかで、まちの魅力となる「物語」を育んでいきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「地域の文化・歴史について（2）」

● 地域の文化や歴史遺産を残したり、未解明の部分の調査研究を通じて、地域の人々が、地域の文化・歴史を理解し、地域に愛着を持てるようにしてはどうか。

【市民意見】

1. 地域の文化の象徴として馬の塔（通称：おまんこ）祭りの定期的開催。
2. 地域に残る歴史遺産の保存の強化（江戸期の地域の領主の墓、祠などの保存）
3. 地域の歴史遺産の未解明の部分の研究強化（猪子石城の調査研究、むかし話の調査、古文書の収集など）

こうした地域の文化・歴史遺産を残したり、未解明の部分の調査研究を通じて、地域の人々が、地域の文化・歴史を理解し、地域に愛着を持てるようにする。

具体的には、地域の遺産毎に案内板を設ける、地域全体の遺産をわかりやすくめぐることができる（昔の道と遺産の案内板）ものを各所に設ける。さらに極めつきは、馬の塔祭りを毎年開催し、地域の文化を知ってもらふ。こんなことを提案したい。

<背景>

私が住む名東区香流学区（名東区全体も同じであるが）は昭和40年代の大規模な宅地開発によって昔の田園風景がなくなった地域です。

ところが、昨年7月～8月にかけて、名東区地域探検隊（香流・山の手チーム）に参加して、名東区香流学区の歴史遺産探検を行いましたところ、馬の塔の衣装、昔の祠、お地蔵さん、無名戦士の墓、神社、仏閣は多少位置が変わっていたりするが、昔が残っていることがわかった。

これらの昔の遺産を保存したり、研究したりするだけでなく、地域の皆さんがよくわかるように、遺産毎に案内板を設け、地域の遺産を巡る（昔の道を歩こうなど）ことができるよう案内板を設け、馬の塔祭りを通じて地域の文化を知ってもらふことが、名古屋の歴史まちづくりではないかと思いました。

昨年の夏、地域探検隊として活動して感じたことから提案します。

1：地域遺産の継承

地元の古老にかつてあった祠、石碑など所在を記憶から聞き出してもないものが多々あり失望しました。しかし、月心寺、神明社などには、かなり有り、成果として取りまとめましたが、今後とも、この種の保存に関する何らかの規制を望みます。

2：昔からの行事の復活

当地区には「馬の塔（おまんこ）」があります。これは「尾張名所図会」にもあり、当所は昭和63年を最後に途絶えました。今ではすっかり忘れられて、旧家の人に衣装が保管されてはいますが、日の目を見ることがありません。

大々的な祭りでなくとも、地域に残る行事として復活すれば、地元住民との一体感の醸成にもなり、活性化にもつながるかと思います。

【市の考え方】

戦略Ⅲの方針1では、各地域に残されている身近な歴史的資源を、地域の魅力として活用することを掲げるとともに、戦略Ⅳの方針2では、地域主体のまちづくりの推進として歴史的資源の発掘や、伝統祭事の復活や、地域による案内板の設置などを挙げております。

今後も、地域主体の歴史まちづくりへの取り組みを通じて、各地域に残されている身近な歴史的資源を、地域の魅力として活用する活動を支援していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「農村について（1）」

- 戦略（案）には都市化のため消滅してしまった、農村の地域の性格は十分生かされていないように感じた。

【市民意見】

今回の戦略案を拝見して、古代から近代に至る「名古屋」という「都市」の成立過程を包括的に網羅した、大変よくまとまった計画ができたと思います。
一方で、都市化のため消滅してしまった、農村の地域の性格は十分生かされていないように感じました。

【市の考え方】

この歴史まちづくり戦略は、4つの戦略で構成されております。戦略Ⅰ・Ⅱでは、古代から現代に至る都市の成立過程の視点での取り組みを掲げているのに対し、戦略Ⅲでは、こうした大きな流れでの視点だけではなく、それぞれの身近な地域において、異なる時代の多様な歴史的資源を活用する視点での取り組みを掲げています。

身近な歴史的界隈の魅力は、捉え方により、多様な視点が存在しますが、それぞれの地域に残る多様な資源を活かした地域まちづくりに努め、名古屋の各地域で市民が親しみ・楽しむことができる歴史環境づくりを進めていきます。

【市民意見の要旨】「緑について（1）」

- 歴史まちづくりには、戦災・宅地開発で消滅した“緑”を復元することが必要である。

【市民意見】

緑の復元とモニュメント樹木の植樹・育成
戦災・宅地開発で消滅した“緑”を復元することが、歴史まちづくりには必要である。
住宅緑化も含む市内全域の緑化推進運動、ならびに市内各地点での将来を見据えた歴史モニュメントとなりうる樹木の植樹・育成を強調することを望む。

【市の考え方】

戦略Ⅲの方針1では、身近にある歴史的資源を活用した地域まちづくりの推進を掲げ

るとともに、戦略Ⅳの方針4では、都市計画・景観・環境・文化・観光・産業など、様々な分野における行政施策の総合的な展開を掲げております。

今後は、水（河川・用水・ため池等）や緑（里山・鎮守の森等）などの歴史的環境を活かしたまちづくりを、保存樹や特別緑地保全地区等の制度も利用しつつ、促進・支援していくとともに、生物多様性2050なごや戦略、低炭素都市2050なごや戦略などの環境の分野における方針・施策と連携を取りながら、歴史まちづくりを進めていきます。

戦略Ⅲ方針2「防災まちづくりとの連携」について（1）

【市民意見の要旨】「水害に強いまちづくりについて（1）」

● 水害と闘った先人達の知恵を知り、水害に強いまちづくりの参考にしたい。

【市民意見】

水害と闘った先人達の知恵を知り水害に強い町造り
名古屋は洪水により出来た土地に形成された街といっても過言ではなく、洪水で村ごと移転した村は数知れない。古より庄内川、矢田川、大幸川等の洪水に苦しめられ「小田井人足」と呼ばれる村人も生み、人々は現在に至っても水と闘っている。一方で洪水は豊かな土壌を造り出し、米や多くの作物の恵みを人々に与え、川は村と村を結ぶ交通、物流の手段として利用され、経済活動の促進の役割を果たし、村の発展に寄与している。江戸時代には豊かな水と米により、造酒屋が営まれ村では地酒が醸造されており、不利と有利が同居する土地で暮らした人々の生活の名残が、特に庄内川、矢田川沿岸の町（守山区：北区：西区：中川区）等には多く残されており、忘れられ行く先人の強さや、知恵と苦勞を偲ぶ建物や遺構から学び語り継ぎ、水害に強い町造りの参考にしたいと提案したいと思います。（別途資料を頂きました）

【市の考え方】

歴史まちづくりにおいては、防災まちづくりとの連携の視点が必要であると考えており、戦略Ⅲの方針2では、歴史的環境を活かした安心・安全なまちづくりの推進を掲げております。

今後は、残されている歴史的建造物やこれが伝える先人の知恵や人々の営みなどを幅広く歴史的資源として捉え、防災に強い家づくりやまちづくりに活かしていきたいと考えています。

（５）戦略Ⅳ「地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」 仕組みづくり」についての意見

戦略Ⅳ全般について（１）

【市民意見の要旨】「人材育成について（１）」

- 歴史まちづくりには、まず「ひとづくり」が必要。地域の祭りや伝統行事への住民参加や住民による地域の歴史学習、住民による歴史案内・ガイドボランティアなどを通じた、歴史まちづくりを担う人を育てることが重要である。

【市民意見】

名古屋市歴史的まちづくりに提案します。
たとえば、緑区は全国に通用する歴史や史跡・歌碑・句碑が多いが、地元区民はじめ市民・国民へのPR不足です。
まず、第一はいかにPRするか。何をPRするか。そこで次に述べることを提案します。
鳴海宿資料館（名古屋市博物館の分館として）をつくる。中心資料は「鳴海宿関係資料」と「芭蕉と鳴海」がよい。有松町桶狭間に桶狭間合戦資料館をつくる。
鳴海宿資料館・有松鳴海絞会館・桶狭間合戦資料館を核にして、史跡散策コースを設定する。さらに、緑区の史跡・歌碑・句碑・産業等に関するウォーキングコースを設定しウォーキング大会等開催し、PRしていく。
有松鳴海絞会館等へ行けば絞りと町並みの関係が理解でき町づくりを考えるよい機会となるでしょう。
ウォーキングコースの「信長の道・芭蕉の道・絞りの道・家康の道」（仮称）等を歩けば昔の人の思いが伝わり地域が持つ伝統や文化を引き継ぎ、未来へ伝えていくことの必要を理解できます。
第二は地域の祭りや伝統行事に住民が参加することです。子供のころから参加していくことが特に大事です。それが地域の子供たちを育てること、地域のまとまりや文化を高めることにつながると 생각합니다。昔遊びも大事な文化です。コマ遊び、けん玉遊び、凧揚げ、おはじき、あやとり、ゴム跳び、鬼ごっこなど地域の子供の成長に欠かせない遊びと思います。遊びのような小さなことからきちんとやるのが実現の第一歩です。
第三は地域のことをだれもが語れることです。一か所でもいい、そこだけでいい。とにかく人に語れるものをもつ、または案内できるなど。そのためには地域住民に何度でも地域の歴史や見所を学習させることです。児童からお年寄りまで散策会など機会を設けて伝えていくことです。子どもたちが地域の歴史を学ぶことがふるさと地域を語れる人になると思います。そのためには地元の小中学校と連携して理解を深めていくことが大事です。
第四は第一で提案した博物館づくりができてなくても町全体を博物館化することです。箱物はいらぬ。鳴海宿で言えば寺社をはじめ見所や見方を紹介すれば町全体が歴史博物館、住民がボランティアガイド、まちおこしに熱心なグループが学芸員の役割。有松、大高、桶狭間も同じ方法で博物館化できます。すると町全体に活気が出てきて住民が生き生きし、住民の絆も高まることでしょう。
第五は地域の歴史の学習の導入・きっかけとして名古屋市内に伝わる昔話、伝説など取材し子ども向けに話してやったり紙芝居にして語ってやることも歴史の入門となるでしょう。書物にして読みなさいだけではいけません。必ず人が自分の言葉で子どもたちに話し聴かせて見せてやるが大変重要です。「まちづくり」は「ひとづくり」から。主役は「ひと」。おもてなしの心を持った「ひと」をそだてる。そのために具体案をみんなで出そう。
「まちづくり」は「ひとづくり」から。主役は「ひと」。おもてなしの心を持った「ひと」をそだてる。安心・安全にくりしができる町から、上記のような「ひと」がそだっていくと思います。

【市の考え方】

歴史まちづくりにおいては、市民それぞれが自分たちのまちを好きになり、誇りを持って身近なまちの歴史について語り合うとともに、世代を超えてまちの歴史を紡いでいくことが大切であるという観点から、戦略の目標を「語りたくなるまち名古屋」の実現としました。

戦略Ⅳでは、地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくりを掲げており、それぞれの地域で行われている、郷土の歴史文化の学習会やまち歩きなどによる歴史的資源の発掘や、イベントや伝統祭事などを通じたまちづくりへの取り組みを支援するとともに、地域のまちづくりの中心となる人材を養成するなどの人材育成などに取り組んでいきます。

戦略Ⅳ方針2「地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進」について(6)

【市民意見の要旨】「イベント等の充実(2)」

● 区や学区を単位としたイベントや、伝統行事などを充実して欲しい。

【市民意見】

まず内容ですが、出しものは基本的に各区単位で行い、さらに細分化して各学区単位で競い合います。例えば、自分の住んでいる学区出身の著名人や学区ならではの伝統ある行事やしきたりを表現して区大会で発表します。優秀作品を今度は名古屋市大会でのコンテストとして優劣を競います。参加資格は各学区の男女を問わず、参加できるものとします。但し、企業の援助は基本的には認めません。期間は、なごやにあやかって、7月5日に始まり8月に終えたいですね。しかし、期間が短いのであれば7月5日に開会宣言を行い、80日間の開催期間とします。(やっとかめの期間とします)

また、地区によっては目玉がないという学区は「事前にサブテーマ」を用意しておいては如何でしょう。恐らく、最近の社会風刺をテーマにすると思われます。郷土の英傑行列も、ややマンネリ化の傾向にあり、ここはひとつ新しい企画でなごやの活性化を図るべきと考えます。恐らく「どまつの踊り」には見られない仕掛けやパフォーマンスが期待されると思います。

私が住んでいる地区であれば、「笠掛け地蔵」が有名です。これをコミカルな踊りや、しぐさで表現するのも一案ですね。

寺社で行われる正月、花祭り等々日本の伝統行事は必ず開始して、市民に心の充実ができるイベントをして頂きたい。

行政、施設、NPO、学校、専門学校、博物館、美術館、公立小中高も参加。

【市の考え方】

戦略Ⅳの方針2に、歴史まちづくりを支える仕組みとして、地域における歴史的資源の発掘や、地域主体の歴史まちづくりの推進を挙げており、伝統祭事の復活やイベントの開催などによって、地域主体の歴史まちづくりの取り組みを支援し、行政・市民など多様な主体と協働したまちづくりを推進していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「地域からの情報発信について(1)」

● 地域の生い立ち、地質、旧地形を知ることにより、地震、豪雨等の災害予防に役立てる等、地域からの情報発信が必要ではないか。

【市民意見】

私は安全・安心まちづくりを推進する活動をしております。

その一環として郷土愛を育む為、学区広報紙(毎月発行)にまちの生い立ち(歴史)を連載しております。紙面の関係もあって、かいつまんで記事にしましたが、地質、旧地形を知ることにより、地震、豪雨等の災害予防にも役立つものと信ずるからです。(土地区画整理前の谷、崖の存在)

NHKTVの「ブラタモリ」の名古屋版を作られたら如何。

近隣では古代の和歌にある桜田、八事音聞山、天白溪、古くからの寺社等、いわれの歌碑、跡の説明碑と遊歩道、更にそのPR(広報なごやその他マスコミ)が加わればより認識が深まり郷土の再認識になると確信します。

【市の考え方】

歴史まちづくりを支える仕組みとして、地域における歴史的資源の発掘や、地域主体の歴史まちづくりへの取り組みを充実していくことが重要であると考え、戦略Ⅳの方針2では、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進を掲げています。

また、歴史まちづくりには防災まちづくりとの連携の視点が必要であると考えており、戦略Ⅲの方針2では、歴史的環境を活かした安心・安全なまちづくりの推進を掲げています。

今後は、地域の資産の再認識や情報発信などの、地域主体の歴史まちづくりの活動を支援するとともに、地域住民の防災をはじめとした安心・安全なまちづくりへの取り組みを支援していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「教育機関の活用について(2)」

- 身近な地域の歴史や歴史的な遺産の存在について、学校などを通じて、知ってもらうことが必要である。

【市民意見】

一般市民、特に若年層・現役世代の、自己居住地域の歴史に対する関心・知識は必ずしも十分ではないので、関心を強め知識を習得する機会を日常的に多く提供する必要がある。
このため、学校教育での郷土史重視、地域住民・専門家・市当局による郷土史発掘と歴史情報PR、権威のある歴史標札類の拡充、ならびに地域の歴史資料館・歴史学習施設(市博物館分館のようなもの)の充実を望む。

身近な歴史に親しむために、まず、身近な土地にある歴史的な遺産の存在を知ることが必要である。文化財指定を問わず、地域にある遺産(近代的なものも含めて)を発掘し、親しみを持たせる。そのためには、小・中学校に協力を依頼し、各学区にどのようにあって、児童生徒にどのように見せるとよいか、また見させた成果があれば報告してもらい界限づくりに活かしたらどうか。有名なものばかりに目をうばわれずに、底辺を広げるために。(別途資料を頂きました)

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略では、市民それぞれが自分たちのまちを好きになり、誇りを持って身近なまちの歴史について語り合うとともに、世代を超えてまちの歴史を紡いでいくことが大切であるという観点から、戦略の目標を「語りたくなるまち名古屋」の実現としました。

今後は、戦略Ⅳの方針2・方針3にあるとおり、郷土の歴史文化の学習会や、歴史的資源のマップづくりなど、地域の活動を支援するとともに、地域住民や学校、行政など多様な主体との連携を深め、これらが収集・整理した情報の発信に取り組みたいと考えています。

【市民意見の要旨】「区名の変更について(1)」

- 名古屋は歴史がない、観光資源に乏しいと言われてしまっている。この意識を変えるため、名古屋の一部の区名を歴史的な名称に変更してみてもどうか。

【市民意見】

名古屋は、戦国時代はもちろん、熱田神宮など神話の時代から続く長い歴史を持つのに、そのことが全く認知されていないばかりか、歴史がない、観光資源に乏しいなどと言われます。

このことは誠に由々しき事態だと思います。その意識は変えていかなければいけません。

そこで、提案です。名古屋の一部の区名を歴史的な名称に変更してみてもどうでしょうか? 現在の名古屋の区名の一部は歴史などを全く感じさせない名称です。例えば、緑区、北区などは他の都市にもありますし、歴史的に何の意味ありません。名古屋には誇れる歴史があるのですから、目にすることの多い区名にそれを反映させるのです。

歴史小説、特に三英傑の物語を読むと、名古屋の地名が数多く出てきます。そのような地名が区名になれば、名古屋の歴史を感じるきっかけが増えると思います。

例えば、緑区⇒有松区(あるいは鳴海区、大高区など)、南区⇒笠寺区、東区⇒白壁区、中区⇒丸の内区(歴史的かどうか別にして栄区でもいいですが)、中川区⇒荒子区、西区⇒則武区、名東区⇒高針区などです。左右を比較すると、全然重みが違うと思います。歴史好きは全国に多いので、名古屋の歴史的な地名を区名に活用すべきです。それこそが何よりの意識変革とPRになると思います。また、これらの名称を自動車のご当地ナンバーに採用するのも良いかもしれません。

【市の考え方】

名古屋には、古代熱田から、近世城下町としての都市の形成と発展、近代における産業都市化と大都市への飛躍、戦災復興と幾多の歴史を積み重ね、各地域には多くの歴史的資源があります。そこで、これらの歴史的資源を活用し、身近に歴史が感じられるまちづくりに取り組むとともに、市民それぞれがまちに誇りを持ち、名古屋の歴史を国内外に広く発信していければと考えています。

また、戦略Ⅳの方針2では、地域主体のまちづくりへの取り組みを挙げており、その一つとして、地域住民の合意が前提とした歴史的経緯や謂れのある「旧町名」を活かす仕組みづくりを検討していきたいと考えています。

戦略Ⅳ方針3「歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信」について(7)

【市民意見の要旨】「情報発信について(4)」

- 市公開施設での資料の充実、交流の場の提供、イベントの実施などにより情報発信を充実してほしい。
- 歴史まちづくり戦略の子ども向けバージョンを作成するなど、子どもにも歴史まちづくりに関心をもってもらうようにしてみてもどうか。
- 市民サイドによるシンポジウムを開催し、普及啓発を図って欲しい。
- 名古屋、堀川、碁盤割のまちを良く知ってもらおうとの動きが出て来たのは喜ばしいと思う。知らなくて幸せだったことも多々あるが、知ってより深く名古屋に愛着が持てることも多い。行政が積極的に市民のための情報を開示し、歴史の道筋を伝えてゆく姿勢が多く多くの市民の賛同を得た歴史まちづくりにつながっていくのではないかな。

【市民意見】

この中で特に大切と私が思う点。戦略Ⅳ-3、ネットワークづくり・情報発信で“なごや歴まちネット”初めて拝見しました。ビジュアルな点、好印象で早速榑木館等へ拝観しました。驚いたのは多くの写真資料、文化のみち二葉館にも武士達の特別展示有り→早急に①展示物、資料のリスト追加②その他歴史の名所多数ありますが一予算等で時間もかかりますので一近所の小学生の歴史授業に取り入れ写真展で現在の街を撮らせ新・旧展示を小学校でイベントにし学校が文化の発信地になり、生徒大人の交流の場となったり作品を一部歴史のある地域の区役所にも展示し市民に文化がどこでもタッチできる様にして頂きたい。③市内には多数あり“広報なごや”のイベントに参加しますが、数多く紹介頂けるので判断材料にしたい。

子ども向けバージョンがあるとよいと思う。
田淵寿郎について、子ども向けの学習参考書を見たことがある。都市計画やまちづくりについて、特に自分の住んでいる都市やまちの成り立ちについて、子どもが触れられるような教材・機会があるとよいと思う。
田淵氏のものは、子ども向けにはちょっと難しそうに感じたので、横浜市の子どもの向け都市計画パンフレットくらい、わかりやすく楽しげな、名古屋の都市の歴史についての本があるとよいと思う。(この戦略を、子ども向けにわかりやすく楽しげに編集したような内容。ナビゲーターに“はち丸”や“だなも”が登場してもいいのかも。)

市民サイドのシンポジウムを開催したいですね。「名古屋の魅力発見」と400年を契機に進めていきたい。

驚くことなのだが昨年から今年にかけて、名古屋市は大きく変貌している。
20世紀までは整然とした城下町だったかも知れない。旧市街は忘れ去られ、新市街が名古屋駅周辺に建設され、既存の栄の4つのデパートの集積エリアに加え、新しい外部の風を取り込んだ駅周辺街が、新鮮な魅力を持ち始めて来た。今後も市役所と県庁をセットにした歴史地区街が形成されるかも知れない。ましてや新たな力を持ち始めた愛知県と名古屋市が協力すれば、どんな形の歴史まち作りが実現するのか予測できない嬉しい可能性も出てきている。今ある施設だけにこだわる必要はないのではないかな。

20年かけて何を残し何を大切にしてくのか、検討する時間も機会も十分ある。これまで見落とされて来た、周辺との関係性の研究や調査から、この地域の新たな価値が発見されることも期待できると思われる。

例えば堀川だが今は汚れたヘドロ混じりの川だが、川底を見ると17世紀の開削時の作り方が手に取るように分かる。先日、京都の北野天満宮に出かけた際、秀吉の1590年に作ったという「御土居」に出会った。これこそ堀川の先祖！秀吉時代の土木工事の優れた技術が京都北野天満宮に史蹟として保存され、今も流れている。この技術が名古屋の堀川にも生かされているのではないかと想像されるものだった。

また二条城にも立ち寄って梅を見て来たが、とても名古屋城によく似ている。同じ中井正清の関係する江戸時代の築城だからなのだが。東京に出かけて皇居前広場に東京都教育委員会の建てた史蹟紹介の立て札に、河村瑞賢の屋敷跡の表示があった。名古屋でも桜通りに河村瑞賢の屋敷跡の教育委員会表示があって、江戸の大政商の活動ぶりが伝わる。京都の桂川を改修し、大阪との交易を拡大させた人でもあり、当時のこの人の経済活動の一端がこの名古屋堀川でも大きな力を持っていたのではないかと予想できる。

最近分かったのだが江戸時代8代将軍吉宗が、今後徳川家に関する一切のことは秘密事項であり、口外してはならぬとしたそうである。1昨年前まで名古屋でもこのお触れが守られ、尾張徳川家のことは口外してはならなかったし、誰も自分たちのまちの歴史を知らないで済ませて来た。2010年以降ようやくこのタブーを解禁し、名古屋、堀川、碁盤割のまちを良く知ってもらおうとの動きが出て来たのは喜ばしいと思う。知らなくて幸せだったことも多々あるが、知ってより深く名古屋に愛着が持てることも多い。

行政が積極的に市民のための情報を開示し、歴史の道筋を伝えてゆく姿勢が多くて市民の賛同を得た歴史まち作りにつながって行くものと確信している。この地方の豊かさを実感できる展示が欲しい。

今後も名古屋に転入してくる人が増えることが予想されるが、これまでの三英傑行列だけだと現場が伴わないため3人の名古屋での関係性が今一つはっきりしなかった。

京都での摂関政治では統治不能となった16世紀。キリスト教の世界進出（大航海時代）に日本がいかに対応してきたか、京都～江戸の中世から近世への時代の変革の必要性がこの地域で読み取ることが可能とされる特性を打ち出したらどうか。キリスト教を海外の進んだ思想として三英傑とも始めは好意を持って接したが、その影響力の威力に国益を害するものとして禁教に転じてゆく。武力をもってしては叶わぬ宗教の力を誰よりも知り抜いていたのが三人の権力者だったのではないかと。武家も多く輩出しているこの地方の強さが分かる背景を伝えることで、中世の歴史が大きく変わるかも知れない。武家勢力が神道中心の政治に切り替わる時代を作り上げたのは、この時代からだった。この街には八幡様が多いのも頷ける。歴史は連続し影響し合って流れてゆく。

畿内から関東へ歴史の舞台が動く中でこの地域の動きの解明が、まち作りの中で進むと嬉しい。大阪を拠点に類稀な土木工事を行った秀吉の時代がなければ、短期間に江戸から名古屋地域の築城は不可能だった。また江戸時代に、今の日本の有名な歴史的建造物の修復がなされていなければ現在まで無事であったかどうか。この地域でこれまで知られていない数々の先人たちの活動の結果が、中世、近世を生きた日本の歴史の集積として意味を持ってくることは予想される。

この堀川界限も、実際の川は簡単に汚れから解放されないが、7キロに及ぶ界限特に納屋橋近くの街は、これまでになく綺麗になり新築ではなくありのままを磨いて見せてくれるようになってきた。戦後の街づくりなので歴史まちづくりと言えないかもしれないが、このことに関心が出てきていることは推察される。市の呼びかけにきちんと応えているように思えてならない。これからは何か統一感をもったルールの感じられる街に成長してゆけば、他にはない歴史の感じられる楽しい地域になるだろうと期待しているところである。

家康の計画都市として知られるこの名古屋市。400年を経て変革すべきものと残すべき伝統・歴史。絶えず変化はしているが、歴史を中心にしたらどんなまちになるのか、興味が尽きない。

【市の考え方】

戦略Ⅳの方針3では、地域住民、NPO、学校や行政など多様な主体による情報発信・交流促進を掲げております。

また、歴史を紡ぐためには世代間の交流も重要な課題と考えております。

今後は、多様な方々に興味を持って頂けるよう、文化のみち榎木館などの公開施設や区役所など、市の施設においての情報発信を充実させるとともに、地域やまちづくりNPO、学校、学識者、専門家団体、民間事業者など多様な主体の交流を強化し、収集・整理した歴史まちづくりに関する情報を、発信する取り組みを支援していきます。

【市民意見の要旨】「ネットワークづくりについて(1)」

- 市民をはじめ、マスコミ、宿泊施設や商店など観光関係者がもっと名古屋の古い時代からの歴史、ルーツを知ることにより、保存や継承について考える必要がある。ま

た、市民、企業、学校などのネットワークを利用して、市内外に情報を発信していくことが大切。

【市民意見】

私は、名古屋市民経済局観光推進室の委託事業で観光客向けの電動アシスト付自転車レンタル「楽チンけった」のスタッフをしております。

この度、「歴史」をキーワードにして、名古屋を深く知り、もっと好きになるこの企画に賛成し「楽チンけった」レンタル事務局として、一緒に取り組めたらと考え意見を提出いたします。歴史的な建造物や文化財を保存し整備することはもちろん、それらを継承し、伝えることが必要ですし、市民にとどまらず、愛知県内の方々、他道府県の方々に情報を発信していくことが大切と考えます。その手法として、公的機関だけでなく、市民、企業、学校などのネットワークを利用するという考えはすばらしいと思いますので、是非協力できたらと考えます。

【提案】

歴史を知ることは、現在の名古屋がどのようにできあがり、名古屋の人々の気質がなぜこのような気質となったのか、なぜこのような文化となったのかを知る。つまり、自分のルーツを知ることです。まず、知ることで、歴史的な遺産の価値を考え、保存や継承について考える必要があります。「武将都市」などのキーワードで、戦国時代の三英傑にばかりスポットをあてるのではなく、もっと古い時代からの歴史を、順をおって知ることが必要だと考えます。市民、マスコミ、観光関係者（宿泊施設や商店を含む）が知る機会をもつと作ることが必要だと思われます。

①名古屋城検定、なごや 400 年時代検定などの検定を充実させ、それらをマスコミ、観光関係者の多くが取得するような仕組みができないかと考えます。現在、私は、仕事の中で、ホテル関係者の歴史知識が少ないことを常に感じます。

②古代から現代までを体系的に学べるイベントの開催。ウォーキング、自転車でのツアー、体験学習などのイベントを通じて知識のレベルアップができるようにする。

③「楽チンけった」事務局では年間を通じて、歴史スポット巡りの企画、ホテルや宿泊施設のスタッフに対する歴史スポット見学を行っています。これらの企画でご協力できたらと考えます。

④観光客や市民へのサービスとして、歴史案内の充実。案内板やパンフレット、インターネットサイトなどは、十分あるとは言えないまでも各自治体で様々なものが出ています。それらを整備することよりも、案内をできる人を増やして街に案内人を配置できたらと考えます。

名古屋城検定や 400 年時代検定の有資格者の中からボランティアを募集し、歴史研修をしたのちに、ホテルや名チャリのステーションなど、気軽に立ち寄れる場所に配置できたらと考えます。小さな規模から始めて、ボランティアスタッフ常駐ポイントを増やせば良いと思われます。（ボランティアの手配は NPO 団体や民間団体が行うとよい）ボランティアを希望すると、年に何度かの歴史講習が受けられるというものにすれば、すすんでボランティアに参加していただけると思います。

⑤施設の関係者、情報提供者、ボランティアスタッフなどが情報を共有できる仕組みが必要。今日のイベント、今月のイベント、名古屋市としての今月のテーマなどを共有しながら、市内・市外に発信していけたらと考えます。ホテルマンやボランティアガイド、マスコミ関係者が詳細を把握していることにより、より広い周知が可能と思われます。情報は一つのデータベースに集約できるとよいです。

「楽チンけった」事務局では、日々の業務の中で観光客に接し、スポットなどの質問に答えていますので、対応のノウハウ、歴史スポットの知識、人材管理の実務の経験があります。名古屋市の事業として行政、観光施設、宿泊施設、ボランティアなどとの橋渡しの動きができればと考えます。

【市の考え方】

歴史まちづくり戦略では、市民それぞれが自分たちのまちを好きになり、誇りを持って身近なまちの歴史について語り合うとともに、世代を超えてまちの歴史を紡いでいくことが大切であるという観点から、戦略の目標を「語りたくなるまち名古屋」の実現とし、また戦略推進の視点の 1 つとして、地域住民だけではなく、観光客などの来訪者や、観光などに従事する事業者など幅広く捉えた「市民」の視点を大切にすることを挙げています。

今後は、戦略Ⅳの方針 3 に掲げているとおり、地域やまちづくり NPO、学校、学識者、専門家団体、民間事業者など多様な主体の交流や連携を強化し、これらが収集・整理した歴史的資源の情報をとりまとめ、データベースを構築するなど、歴史まちづくりに関する情報発信に取り組んでいきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「情報の管理について（2）」

- 官民間問わず保管されている名古屋の都市の歴史を語る各種資料などを、一括検索できるようなデータベースを構築し、情報の一元管理がされると望ましい。

● 16区全区に歴史民俗資料館の建設を提案する。

【市民意見】

資料収集と情報の一元管理

名古屋の都市の歴史を語る各種資料（写真、図面、図書など）は、官民を問わず、いろいろなところで保管の努力がされていると思うが、どこにどんな資料があるのか、一括検索できるようなデータベースを構築し、情報の一元管理がされると望ましい。思いっただけでも名古屋市市政資料館、愛知県公文書館、愛知県と名古屋市文化財保護室（文化財の資料）、名古屋市都市景観室（壊れた建物図面など）、愛知県図書館地域資料、鶴舞中央図書館地域資料、国土地理院、蓬左文庫、徳川園、都市センター（都市計画史関連図面・写真など）、大須文庫、商工会議所など。

特に、写真や古地図などビジュアル的なものは、著作権等の課題もあると思うが、画像化され、見やすい形で（専門家ばかりでなく一般市民へも）提供されることで、名古屋について深く知り、理解をふかめ、愛着が増し、「語りたくなる名古屋」の雰囲気醸成されていくと思う。

各地域で遺されている貴重な文化財の調査・保護・保全・発掘・伝承・公開のための拠点として、16区全区に歴史民俗資料館の建設を提案します。

【市の考え方】

歴史まちづくりを推進するためには、地域の歴史的資源等の情報の共有・活用を図るとともに、多様な主体をつなぐネットワークの形成・交流を促進することが重要と考えており、戦略Ⅳの方針3では、歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信を掲げております。

今後は、地域住民、市民活動団体、民間事業者、行政など歴史まちづくりに関わる多様な主体の交流や連携を強化し、これらが収集・整理した歴史的資源の情報を発信していきたいと考えています。

戦略Ⅳ方針4「歴史まちづくり施策の総合展開」について（5）

【市民意見の要旨】「環境施策との連携について（3）」

● 歴史まちづくりの視点として、河川空間の緑化による生物多様性の確保やヒートアイランド対策、また自然保護なども取り入れてほしい。

【市民意見】

市内各地には様々な有形の歴史的資源として構造物や街道などの資源遺産は、私たちの知っている・思っている数より意外と沢山あるものです。それらを活かしてすでに魅力的な建物の開放や物販店への改造、街道としての町並み整備など、歴史遺産の展示そして風景が醸し出す観光ムードの演出等々やられています。私は別の視点からの取り組みとして中川区庄内川一色大橋の松陰公園を起点に河川空間を利用し、30年、50年、100年後の世代へつなげていく仕様と取り組みで、松並木を上・下流へ拡張し、緑化による生物多様性、そして海風を市の西と北側へ誘導して市内ヒートアイランド対策に貢献できる自然環境に優しく持続可能な町づくりとして活動しています。

詳しい地図面・施策・仕様などの資料を用意しています。是非名古屋市の協力を得て官・民協働事業としてもものにしたいと考えています。

歴史町づくりシンポに参加して現存歴史遺産の語り部による伝承が歴史を支えることで語りたくなる町であるとの様に受け止め一寸ガッカリしました。私は今回全市あがりの取り組みは現存遺産の見直しと盛りあげの他に失われ忘れられてる遺産の掘起こしと復元再生を目指したと理解して。そのうえで考えた事は、市域 1/3 の南西部が干拓新田であり市の経済発展に重く関わってきたのが文明開化・近代化により干拓地の様子の分るものがほとんど失われました。そこで持続可能な循環形の開発として港区当知町地先に庄内川流域最後の干拓新田づくり（輪中法や締切法と異なる）を展開し復元再生する事で自然と風土を体感し生物多様性に囲まれた省資源・省エネの環境教育の場をつくり他の取組みと一味異なる特色をだし差別化したものを考えてます。絵図面や施工法・仕様・活用法についても書き留めます。是非行政・地方自治体・建設業界等の協働を得て実現したいです。

これ以上名古屋の自然を破壊しないでほしい。中川区の富田公園はもとの自然を壊し、すっかり整備されましたがほとんど人はいません。数人がウォーキングしているのみ。公園や川の整備はストップして樹木や虫、鳥と共存できる町がいいと思います。街の中に虫がいて鳥がいて魚がいてこそ人間は安らぐと思います。それが歴史への大切さにつながります。

【市の考え方】

歴史まちづくりを推進するためには、都市計画・景観や環境など、様々な分野からの視点が必要であると考えております。戦略Ⅳの方針4では、都市計画・景観、環境、文化、観光、産業など、様々な分野における行政施策の総合的な展開を掲げております。

名古屋市では、環境（水・緑）への取り組みの方針として、生物多様性2050なごや戦略、低炭素都市2050なごや戦略、水の環復活2050なごや戦略などを策定しておりますが、これらの計画やこの分野の施策との整合・連携を取りながら、歴史まちづくりを進めていきます。

【市民意見の要旨】「公有地のあり方について（1）」

- 歴史まちづくり推進に向けた強力な土地利用政策、公有地のあり方（コンセッションや定期借地権の活用などの促進など）、公有地を手放さない基準などを検討してはどうか。

【市民意見】

歴史が感じられる景観を大事にしたい。また、財政難を乗り越えるために公有資産を売却すべきと考える風潮もあるが公有地や公共建築物によって意味のある景観が維持されている面もあると思う。以上より、歴史まちづくり推進に向けた強力な土地利用政策、公有地のあり方（コンセッションや定期借地権の活用などの促進など）、公有地を手放さない基準などを検討しては如何かと考える。

【市の考え方】

歴史まちづくりにおいて、行政が所有する公有地や公共建築物の役割は大きいと認識しており、戦略Ⅱの方針2に市所有の近代建築の保存・活用を挙げるなど、歴史環境に配慮した公共施設整備を推進することとしています。

ご指摘のとおり、本市の資産保有のあり方についても、財政面からの検討は必要であり、戦略Ⅳの方針4に行政施策の総合的な展開を掲げておりますが、ご意見を踏まえ、歴史まちづくりに係る本市資産の保有のあり方を検討していきたいと考えています。

【市民意見の要旨】「歴史的建造物の周辺環境について（1）」

- 歴史的建造物のみでなくその周辺環境を配慮していくことも必要である。

【市民意見】

歴史を活かしていくことは大事なことでと考えているが、周辺環境も十分配慮しなければならない。騒音や匂いを出している工場等、落ち着いた歴史的建造物の周囲にあるけばけばしい広告塔、ランプなどの付いた歩行の邪魔をしている置き看板等は厳正な対応をするべきである。

【市の考え方】

歴史まちづくりを推進するためには、都市計画・景観や環境など、様々な分野からの視点が必要であると考え、戦略Ⅳの方針4では、行政施策の総合的な展開を掲げており、都市計画・景観、環境などの部門との整合・連携を取りながら、歴史まちづくりを進めていきます。

住宅都市局 まちづくり企画部 歴史まちづくり推進室
電 話 : 052-972-2782
FAX : 052-972-4485
電子メール : a2782@jutakutoshi.city.nagoya.lg.jp